

## 令和7年度 第1回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 令和7年6月2日（月）午後3時00分～5時30分

大東市役所 厚生棟A会議室

2. 出欠（敬称略）

### 【出席】

大阪産業大学 社会連携・研究推進センター長 国際学部国際学科 教授	中山 英治
大阪公立大学 商学部 教授	本多 哲夫
(株)山田製作所 代表取締役	山田 茂
NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	中村 朋子
小金屋食品(株) 代表取締役	吉田 恵美子
アッセンブル産業(株) 代表取締役	竹原 清司
大東商工会議所 常議員 (株)ウチダ 代表取締役	内田 祥嗣
近畿経済産業局 総務企画部中小企業政策調査課長	阿瀬 太

大東市 産業・文化部長 田中 知子

事務局 産業経済室 杉谷総括次長・椎葉課長・林上席主査・田上（文責）

### 【欠席】

新大阪食品産業(株) 代表取締役	北尻 正太
明星シンセティック(株) 代表取締役	上田 隆章
大東市商業連合会 会長 JILLS	角谷 昌寛

3. 部長あいさつ

異動により部長が初めての出席となったため挨拶を行う。

4. 委嘱状交付

部長より阿瀬委員へ委嘱状交付。

5. 委員自己紹介・事務局紹介

阿瀬委員が初めての出席となるため、各委員・事務局から自己紹介と挨拶を行う。

6. 議案

(1) 大東市産業振興市民会議概要説明

事務局より資料1～資料5について説明。

## (2) 確立したビジョンの今後の展開について

### ➤ 会長からの挨拶

大阪では関西万博が話題とおり、評判も良いと聞く。私自身も行ったが、大屋根リングには圧倒され、また各パビリオンも興味深いものがあった。

市民会議では10年後のビジョンに関する柱を数年かけて作ってきた。総花的なもので終わらせるのではなく、これからしっかりとビジョンに色付けれるような議論にしていきたいと思っている。

➤ 会長より「大東市地域産業振興基本条例」ならびに「10年後の大東市の産業振興に関する基本指針について」の概要について改めて説明

### (各委員からの意見)

> 基本指針にあげている4つの柱を達成するために、10年後を見据えたロードマップが必要だと感じる。また1年後、5年後の目標を決めた方がより具体化されていくと思う。

> 4つの柱に対しても各々得意不得意がある。それぞれの柱に強いメンバーによるワーキンググループを作成し、より議論を深めていければと良いと思う。私自身の話でいうと、コミュニティに関しての議論を市民会議で行ったことがきっかけで、まちゼミを姪が運営することになった。またその流れから姪が開業届を出すきっかけにもなったので、コミュニティに対する想いが強い。

> 4つの柱を具体的に推進する団体や実働部隊を作る必要がある。また、10年後に対してのロードマップは実際に作るのはとても難しいとも思う。自社が属している自動車業界でも市場の変化が激しく、ロードマップ通りにいかないことも多い。ただロードマップは必要だと感じるため、少し短い期間、例えば5年後などの目標設定が必要だと感じる。

> 昨年度の会議にて基本指針は可視化された。大東市のホームページにて基本方針に係る資料は公開されているため、その情報にアクセスできる人は可視化された基本指針を体験することができる。しかし人の目に触れる機会は少ないので、周知するための活動が必要だと感じる。また、これからの支えていく若者に対してもこの基本指針に触れる機会を作っていくことが必要だと感じた。

> 他人事では物事は動かない。4つの柱を達成すると「どのように市が変わるのか」や「自分たちがどう変われるのか」などをうまく伝えることが、積極的に参加する人を増やす要因になると思う。そのためPR方法については工夫が必要だと感じる。

> ワーキンググループは必要だと感じる。また、大阪産業大学の学生と意見交換する機会があっても良いと思う。大阪産業大学のサッカー部と関わる機会があった際に、サッカーを続けながら大東市内企業で働きたいと感じている学生がいた。色々なネットワークの情報が集まる場を作り、その情報を各コミュニティに提供できるようにしていきたい。

> 10年後の理想とそのための施策に関しての討議はかなりしてきたと思う。ただ来年度に全て実現しよ

うとしても人的資源や金銭的にも難しいと思う。その中でどのテーマから始め、どう実現していくかを考える必要がある。また企業などの自助努力を前提として、予算がどの程度必要か、既にある施策と紐づけるのか、新しいものを作るのかを含め事務局である行政の調整が重要だと感じる。また、どのテーマから先に始めるかの議論も必要だと感じる。

> 緑風冠高校からのキャリア教育に関わる依頼を中小企業家同友会が昨年度受けた。キャリア教育でいえば、コロナ前に野崎高校でも働く意義などの講義を行ってきた。ただ一方通行のキャリア教育になっているものも多い。一方、香川県三木町では共育型インターンシップを行っている。また、インタビューシップという名で生徒から経営者に対してインタビューを行っている。インタビューでは「経営理念」や「将来ビジョン」等のヒアリングを行い、生徒がその内容をまとめ発表する取組を行っている。ローカルテレビ等も取材に来ており、大きな反響を生み出している事業である。今回の緑風冠高校でのキャリア教育はインタビューシップを行う。この事業は行政や学校を巻き込み、継続的に行っていきたい。また、もう一つ面白い事業でいえば morineki である。morineki では学生を集めビジネスについて学ぶ機会を作っている。今後はそういう面白いことをしている人を巻き込んでキャリア教育を行っていく必要があると感じる。

> 地域と学校を結び付ける、キャリア教育に興味を持たせることが出来る事例は他にもあるはずなので、調べておく必要がある。

> 企業誘致と聞けば大企業の誘致か、保証協会金利を下げるかどちらかを頭に浮かべる。ただ大企業の誘致は失敗が多い。

> 大企業誘致はその企業が撤退するリスクもある。市長が言っている企業誘致は、大規模な土地だけではなく小規模な空き家などを活用した事業も指している。企業誘致については様々な方向性で考えていく必要がある。

> 城東工科高校でも緑風館高校の事例に近い取組が行われている。本事業は商工会議所や教育委員会や同友会にも依頼し周知を行っている。行政と団体、それに関わる人たちがチームを組んで動く方が良いと思う。

> 高校を無くしすぎているのも問題である。定員割れによる廃校のルールが厳しくなっているが、実業高校は残すべきだと考える。

> 「経営者同士が自ら学ぶ」というテーマであれば、セミナーなどは同友会や商工会議所も行っている。例えば各団体が集まってセミナーに関する事前会議を行い、どのセミナー内容をどの団体が行うかなどの役割を決め、協力し広報活動を行うことも重要だと感じる。

> セミナーなどを含めた情報を一元管理できるプラットフォームが必要だと感じる。情報を一般人が確

認でき、発信した情報に興味を持った人が意見を言える、ワーキンググループに参加できるような流れが必要だと感じる。

>そのためには基本指針を広く知らせる必要があると感じる。

>「個性を育む」というスローガンがある中で、4つの柱がどの個性を指しているかの具体性を持たせることが重要だと感じる。抽象的なものではなく、短い言葉で記載することで若い人にも興味を示してもらえると感じる。例えばコミュニティの個性はこの柱であるというようなことが一目で分かるようにすべきだと感じる。

>例えばコミュニティには女性の活躍も含まれている。キャリアを積んでも、致し方ない理由で辞めないといけな女性も多くいる。その中で働きたい女性と企業を繋げるのもコミュニティである。このスローガンには大東市の地域課題に対して解決するプロセスの中に新事業が生まれてほしいとの思いがある。

>情報発信のプラットフォームは作るのは難しくないと感じる。

>今までいろいろな中小企業施策の情報を発信しても、そこに手を挙げる企業は少なかった。企業も情報は求めているが、自社の経営課題にすら気づいていないためアンテナを立てられていない企業も多い。そのような成り行き経営をする企業の最たる悪い例は採用である。人が減ったから採用するのではなく、定期的な採用を行い、長期的な視点で会社経営を行う企業が必要である。その企業が経営課題を見つけられるための取組も重要である。

>毎年行っている企業に関する劇に関しても2017年に作成した際は多くの取材を受けた。今年で9年目になるが、当たり前化してしまったため、取材が来なくなってしまった。継続的に活動し、その中で注目し続けてもらうことは難しい。

>記者会見を行っても新鮮味がないと興味を持ってもらえないことが多い。マスコミを利用するのであれば、目につく見せ方が必要だと感じる。市役所のHPだけではなく、InstagramやFacebookを作成し、登録をしてもらえるような様々な取組を行うことも必要だと感じる。

>インターンシップを管轄しているキャリアセンターに確認していると、現行のインターンシップは外部からの委託により行っているとのことだった。そのためアレンジするまで手が回らないとの発言もあった。現状を変えるべく市民会議での情報を基に出来るから進めていこうという話になっているので、キャリアセンターとは接点やつながりを持ちつつ取組を行っていききたい。

>長期でのインターンシップ自体は珍しい。5日から1週間のインターンシップは無償であることが多い。インターンシップにおいてもエントリーシートを提出し、選考がされる。アルバイト型インターンシ

ップは魅力だと感じる。地元志向が強い人もいる中、アルバイトをするついでに中小企業で働くことは魅力的だと感じる。

>インターンシップに行きたいが、家計を助けるためにアルバイトに行かなければならない学生も多い。そのためアルバイト型インターンシップは必要だと感じる。

>情報発信力が必要だと感じる。ワーキンググループを作るのであれば、対象者の適正を見極め、参加する人がわくわくしながら活動できる場を作ることが必要だと感じる。

>情報発信ひとつを取っても、自社の情報発信も継続的に行えない企業もある。

>国際学部では学部学科の Instagram 情報更新を学生が行っている。また、教員が更新内容をチェックしながら運営する体制も整っている。商工会議所・大東市・大阪産業大学が共同で行っている活性化協議会では「いいね探しプロジェクト」という事業を行っている。ゼミの授業に紐づいた形で SNS 管理やインタビュー活動も行っているため、企業と学生がつながる活動となっている。ほかには新入生全体の 100 名ほどに対して授業を行う機会もある。最近ではキャリア支援という目線で授業も行ったが、この授業のタイミングで市民会議の趣旨に結び付く方法のレクチャーを行うことも一つの手法だと考える。

>今ある団体の活動を繋げていくことも重要だと感じる。それぞれの活動が繋がらず、自分たちのコミュニティだけで情報が止まってしまっている。新しい取組は注目を集めるが、今ある取組を明確化し、つながる必要があると感じる。

>各団体の意見交流会も必要だと感じる。趣旨が異なるため共同して活動は難しいが、情報共有は大切だと感じる。

>行政や民間を含むすべての団体がそれぞれで取組を行う中で情報共有を行うことが重要である。

>以前に比べると市の LINE 等で情報発信を行えるようになってるが、単発になっていると感じる。また、様々な情報が集約した場も必要だと感じる。

>大型ごみを二階から下ろせない高齢者に対してのビジネスを新しく作った。地域課題をビジネスにつなげるような施策を考えたい。

>例えば FactorISM などはプラットフォームとして確立している。

>FactorISM は会社を知ってもらうことや、従業員が職場を好きになるきっかけにもなっているため良い取組だと感じる。

>FactorISM 自体は広域的に活動している。また一方で、大東市では商工会議所主導にてだいたいオープンファクトリーCONTACT を実施している。この二つもつながりを持ち、情報共有を行うことは可能だと感じる。

>FactorISM は私たちの子どもの世代が行っている。親子が参加してくれることが多く、企画に関しても社員が自らやりがいを感じながら行っていることに魅力を感じる。商工会議所が行っているだいたいオープンファクトリーCONTACT も地域にフォーカスしていることに魅力を感じる。

>FactorISM はモノづくり企業が参加するイメージがあり、食品関係である自社とのイメージと結びつかないため参加を悩んでいる。社員教育としても魅力を感じているが、自社の参加は検討中である。

>10 年以上前に大阪市で行っていた事業は製造業だけではなかった。オープンファクトリーが大々的に広がる中で製造業が中心となってしまった経緯がある。

>モノづくりのイメージが FactorISM には強い。

>FactorISM などすべての業種が参加できる環境を作ることが望ましい。製造業以外を阻害している部分もあるため、少し残念に感じる。しかし、工場は一般の方が普段入ることのできない場であるため、魅力を生み出している点であると思う。

>オープンファクトリーCONTACT は様々な業種が含まれているためその部分で魅力を感じる部分もある。それぞれの良さがあるため、情報共有が大切であると感じる。

>工場は雇用が多く、波及効果も生み出しやすい。中堅企業の施策という言葉をよく聞くがどうか。

>中堅企業の成長率が高いことから売上をさらに伸ばしたい、投資に対する貢献が大きいという考えもできるため支援を行っている。ただ零細・中小企業に関しても支援は行っている。

>100 億円企業 1 社より 1 億円企業 100 社の方が雇用を多く生み出す。大東市では人口は流出しているが、原因としては街に魅力がないのではなく。雇用の受け皿の魅力が乏しいことだと感じる。

>小中学校の給食を無料化したため、人口減少が抑えられていると聞く。

>亡くなった方と生まれた方の差である自然減はあるが、転出者と転入者の社会減を考えると転入者の方が多という結果が出ている。

>B 型事業所については仕事の請負を行っているが、その事業に関しては大阪と山形はワースト 1, 2 であった。無意識のうちに付加価値や費用対効果を求めてしまう傾向にあると感じる。

>ブランド力の向上が大事だと感じる。

>弊社では今年度から障害者雇用を始めた。ルーティンワークは少ないため、今までは先生側から断られることが多かった。ただ今回来た学生はモノづくりが好きで、優秀だと感じる。親御さんと相談し4月から入社した。5年以内に山田製作所の賃金テーブルに乗せるよう取組を行っている。大東市の様々な企業が手を上げ、障害者雇用によって人手不足が解決できる可能性もあるため、重要な取組と感じる。また障害者雇用に関しての情報を広めていくことも大切だと感じる。

>4本の柱に対して各団体がどのような活動を行っているかの一覧を作る必要があると感じる。

事務局回答

>一度フォーマットを作成し、各委員へメールにて送付する。

次回開催日

8月4日(月)15開始予定